

生とは何か——人間の尊厳とは何か——戦争の意義を苛烈に問いかける衝撃作、4K版初披露

FIRES ON THE PLAIN

a film by
KON ICHIKAWA

野火

終戦80年企画

第14回ロカルノ国際映画祭®グランプリ
ハンブルグ映画祭 優秀映画賞
バンクーバー国際映画祭 カナダ映画協会賞
第33回キネマ旬報日本映画ベスト・テン 脚本賞・主演男優賞
第14回毎日映画コンクール 男優主演賞
第10回フルーリボン賞 監督賞・撮影賞

監督／市川崑(『犬神家の一族』『ビルマの竊賊』)
原作／大岡昇平『野火』(角川文庫／KADOKAWA刊)
脚本／和田夏十

船越英二 ミッキー・カーチス 滝沢修

配給 KADOKAWA
©KADOKAWA 1959

一線を超えられるか

生死の境で人間が獣と化す
極限状態に追い込まれた兵士に迫る
非情な選択

生とは何か——人間の尊厳とは何か——戦争の意義を苛烈に問いかける衝撃作、4K版初披露

JOHNNY GOT HIS GUN

a film by
DALTON TRUMBO

ジョニーは 戦場へ 行った

4K

終戦80年企画

第24回カンヌ国際映画祭®
審査員特別グランプリ
国際映画評論家連盟(FIPRESCI)賞
国際エヴァンジェリ映画委員会賞
1972年度芸術祭大賞

原作・脚本・監督
『ローマの休日』原案・脚本
ダルトン・ランボ
『(新訳) ジョニーは戦場へ行った』
(角川新書 KADOKAWA刊)

ティモシー・ボトムズ
キャシー・フィールズ
ジェイソン・ロバース
ダイアン・ヴァーシ
ドナルド・サザーランド

配給 KADOKAWA
©ALEXIA TRUST COMPANY LTD.

これは夢か、現実か

触覚以外の全感覚と四肢を失い

“意識ある肉塊”と化した

青年の魂の叫び

終戦80年。生とは何か——人間の尊厳とは何か——戦争の意義を苛烈に問いかける衝撃の二作、4K版初披露

50年以上前に公開された『ジョニーは戦場へ行った』も65年以上前に公開された『野火』も、まったく古びることなく、ますます現代に必要な、今見る価値のある映画になっていることに衝撃を受ける。若い世代にぜひ見て欲しい。鴻上尚史(作家・演出家)

JOHNNY GOT HIS GUN a film by DALTON TRUMBO



赤狩りによりハリウッドから追放されるも、『ローマの休日』『黒い牡牛』『スパルタカス』など脚本家として多くの名作を生み出し、2015年には彼をモデルにした映画『トランボ ハリウッドに最も嫌われた男』も公開されたダルトン・トランボ。彼がアメリカの軍歌でも使われた志願兵募集の宣伝文句“Johnny Get Your Gun”のパロディをタイトル(原題)に据え、第一次世界大戦時に身体ほぼ全ての器官を失った青年兵士の視点から戦争の闇を暴いた反戦小説「ジョニーは戦場へ行った」。第二次世界大戦直前の1939年に発表し物議を醸した問題作を、ベトナム戦争中の1971年にトランボ自らの脚本・監督で映画化。第24回カンヌ国際映画祭®で審査員特別グランプリほか三冠に輝き、日本でも1972年度芸術祭大賞を受賞した戦争映画の名作が50年以上の時を経て4K版日本初公開。



<STORY> ジョーが目を覚ますと、病院のベッドの上に横たわっていた。第一次世界大戦下、志願してヨーロッパ戦線に出征したアメリカ兵の彼は、砲弾により目、鼻、口、耳を失い、運び込まれた病院で両腕、両脚も切断。首と頭がわずかに動き、皮膚感覚だけが残ったが、姓名不詳の<407号>と呼ばれ、軍部の実験材料として生かされる。鎮痛剤を打たれ意識が朦朧とする中、ジョーは想いを巡らせる。最愛の恋人カーリーンとの出発前の一夜、釣り好きだった父親と過ごした日々…。

原作・脚本・監督:ダルトン・トランボ「(新訳)ジョニーは戦場へ行った」(角川文庫/KADOKAWA刊)／製作:ブルース・キャンベル／撮影:ジュース・ブレンナー／編集:ミリー・ムーア／出演:ティモシー・ボトムズ、キャシー・フィールズ、ジェイソン・ロバース、ダイアン・ヴァーシ、ドナルド・サザーランド／1971年／アメリカ／112分／カラー／モノクロ／ビスタ／字幕翻訳:高内朝子／配給:KADOKAWA ©ALEXIA TRUST COMPANY LTD.

FIRES ON THE PLAIN a film by KON ICHIKAWA



自身のフィリピンでの戦争体験を基にした大岡昇平による戦争文学の最高傑作「野火」は1951年に発表され、第3回読売文学賞・小説賞を受賞。第二次世界大戦下、フィリピンのレイテ島を舞台に、病魔に侵された中年兵士が飢餓と孤独に苦しんだ末、目の当たりにした陰惨な戦場を描く。監督は『ビルマの罌堇』『東京オリンピック』『犬神家の一族』などの市川崑。脚本・和田夏十とタッグを組み1959年に念願の映画化。映像美の巨匠・市川崑が戦争における人間の真の姿を映し出した本作は、第33回キネマ旬報日本映画ベスト・テンほか国内だけでなく海外でも高い評価を受け、第14回ロカルノ国際映画祭®グランプリ、ハンブルグ映画祭優秀映画賞、バンクーバー国際映画祭カナダ映画協会賞を受賞。2014年には、塚本晋也監督の同名作も公開され大きな話題となった。



<STORY> 第二次世界大戦末期、フィリピンのレイテ島。日本の敗北が濃厚な状況下で、肺病を患った一等兵・田村は部隊から追い出され、病院からも食糧不足を理由に入院を断られる。病院の前で、田村は同じく厄介者として見放された若い兵の永松、足の負傷で歩けなくなった中年兵の安田と出会う。病院が襲撃され、一人逃げた田村は、飢えに駆り立てられるように熱帯のジャングルを彷徨う。途中、別の部隊に同行するが、米軍の一斉砲撃により他の兵士たちは全滅し…。

監督:市川崑／原作:大岡昇平「野火」(角川文庫/KADOKAWA刊)／脚本:和田夏十／撮影:小林節雄／音楽:芥川也寸志
出演:船越英二、ミッキー・カーチス、滝沢修／1959年／日本／105分／モノクロ／シネマスコープ ※2022年のデジタル修復によるマスターです／配給:KADOKAWA ©KADOKAWA 1959

8.1(金) 全国順次〈ROADSHOW〉



ムビチケ前売券(オンライン)発売中
1作品につき1,500円(税込)
※劇場での販売はございません。
※販売は7/31(木)まで
特典:スマホ壁紙 ※画像はイメージ



@kado_cine
@KADOKAWA_pic

YouTube

公式YouTubeチャンネル
[角川シネマコレクション]で
関連作を順次無料配信

配信

Prime Video内
[KADOKAWAチャンネル]で
関連作を会員見放題配信中